

夏休みは大きな声を出して読む「音読」に力を入れて、学力を身に付けよう

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：学力が身に付かないため、成績や偏差値が上がらずに困っています。どうしたらよいでしょうか。

A：(林明夫。以下省略)簡単です。学校の「教科書」や開倫塾の「テキスト」、自分がいつも使っているハイトップやチャート式などの「参考書」でよく勉強し、書いてあることの意味がよくわかっているページを、大きな声で何回も何回もひたすら読むことです。つまり「音読」すること、これをお勧めします。

すべての教科について、書いてあることの意味がよくわかり、「理解」できている「教科書」「テキスト」「参考書」などの文章の「音読」を、私は心からお勧めします。

Q：えっ、「音読」したほうがよいのは英語だけではないのですか。

A：(1)もちろん、英語の習得に音読は欠かせません。読んで意味のわからないこと、つまり「理解」できないことは聞いてもわからない、自分で発音できないことは聞いてもわからないからです。そこで、意味がよく「理解」できた内容をひたすら声を出して読む「音読」が、英語の聞き取り、リスニングには欠かせないのです。

(2)英語で最も難しいのは、英語を母国語とするネイティブの言っていることを正確に聞き取るリスニングの能力です。リスニングの能力を身に付けるために、意味がよく「理解」できている文章を大きな声を出してひたすら「音読」し、舌を鍛えて下さい。

(3)ただ、「音読」するほうがよい教科は、英語だけではありません。社会、国語、理科、数学も音読するほうがよいのです。音楽や美術、保健・体育、技術・家庭の実技 4 教科も「音読」するほうがよいのです。

(4)私は、大学生の時に法律を勉強していましたが、法律の条文や裁判の判例、法律の教科書も、意味がよくわかり「理解」できた文章は「音読」したほうが身に付きました。

(5)このように、法律に限らずすべての教科は、一度意味がわかり「理解」した文章は声を出して読むと身に付きます。このことはよく覚えておいて下さいね。一度意味のわかった文章は声を出して何回も読む、つまり「音読」すると身に付くという「音読」の仕方は、すべての勉強にあてはまります。一生役に立ちます。

Q：例えば、英語の教科書は何回ぐらい「音読」したらよいのですか。

A：(1)同時通訳で有名な国広正雄先生は、中学校時代に、英語の教科書の意味のよくわかった 1 つの課を 500 回から 1000 回ぐらい「音読」なさったそうです。

(2)そこで、すべての教科について、教科書の意味のよくわかったところを 100 回単位で「音読」することを、私はお勧めします。

- (3)ただし、意味のよくわからない内容や語句は、「辞書」や、ハイトップやチャート式などの各教科の「学年別参考書」、各教科の「用語集」をどんどん活用して調べましょう。
- (4)漢字の読み方がわからないと「国語辞典」で調べられませんか、「漢和辞典」をいつも身近に置きましょうね。「漢和辞典」が使えない人は、一日も早く使い方を身に付けましょう。
- (5)「国語辞典」や「漢和辞典」、「英和辞典」、ハイトップやチャート式などの各教科の「学年別参考書」、各教科の「用語集」は、教科書や問題集を一人で勉強し、ことばの意味や各教科の重要な内容を「理解」するときの大切な道具です。武士が戦場に戦いに行くときの武器にあたります。それを持っているかないかで、それが使いこなせるかこなせないかで、勉強の効率が著しく異なります。必ず身近に備え置き、真っ黒になるまで、また、ボロボロになるまで使いこなしましょう。
- (6)「音読」するのは、「理解」の後です。まずは何が書いてあるかがわかること、つまり「理解」することが大事です。これも忘れないで下さいね。

Q：何だかやるが多そうですね。

A：(1)怠け者には福は来ないのが勉強です。しかし、努力の積み重ねは必ず報われるのも勉強です。

- (2)まず、はありとあらゆる努力をして何が書いてあるのかの「理解」に努める。よく「理解」した後に、大きな声で読む「音読」をひたすら繰り返し行う。そうすれば、学力は必ず身に付きます。学校の定期テストで100点満点が取れます。これだけで、模擬テストの偏差値も70以上になります。この方法での勉強の努力は、必ず報われます。

Q：本当ですか。

A：本当です。学力の高い低い、また、勉強がよくできるかできないかは、このような基本的なことをやるかやらないかで決まります。頭がよい悪いなどは全く関係ありません。努力次第で、いくらでも成績は向上します。

Q：やったほうがよいことは、まだありますか。

A：(1)「理解」をするには、学校や開倫塾の「授業をしっかりと聴く」ことが最も大切です。どのようなところでも、先生の授業は大事にして下さい。わからないことは遠慮せずに質問しましょう。

(2)「音読」できたところは、何も見ずに書けるようになるまで「書き取り練習」もして下さいね。

(3)一度やった計算や問題は必ずもう一度やり直し、なぜそのような解答になるのかがよくわかったら、計算や問題を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出るまで「計算・問題練習」を繰り返して下さい。

(4)よく「理解」できた内容についての「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」のことを、「定着のための三大練習」と私は名付けました。この「定着のための三大練習」は、皆様の学力を飛躍的に向上させます。まずは100回単位で「音読練習」をしましょう。「練習は不可能を可能にする」のです。

(宇都宮大学大学院 工学研究科 客員教授)

- 2011年6月16日 林明夫記 -